

## オオアメンボ *Aquarius elongatus* (Uhler)

### 【選定理由】

平野部から山間部にかけて普遍的に分布しているが、これまで記録のあった平野部における確率が少ない。また生息が確認された場合でも確認個体数は少ない。

### 【形態】

本州産アメンボ科では最大級で、体長は 19~27mm、体肢は黒色で長い。♂の中脚は特に長く、腿節は体長よりも長い。一般に♂の方が♀よりも大型である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根村、新城市、豊田市、岡崎市、瀬戸市、犬山市などで確認されている。

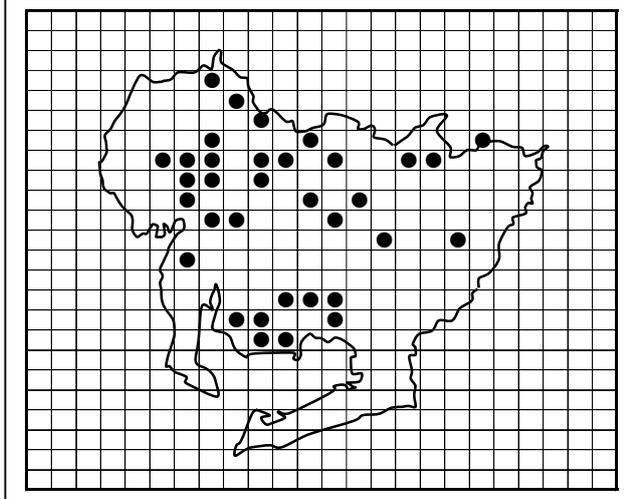
#### 【国内の分布】

本州、隠岐、四国、九州、対馬。

#### 【世界の分布】

中国、韓国、台湾。

県内分布図



### 【生息地の環境／生態的特性】

丘陵地から山間部にかけて、周辺を樹林に囲まれた池沼などに生息する。砂防堰堤によってせき止められた湛水域でもよく見られる。樹木の葉などによって日陰となった水面を好む。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

丘陵地から山間部にかけて広く分布しており、水深の深い止水域に生息している場合が多い。河川上流域の緩流部でも見つかる。人里の分布域では、水質の悪化や生息地周囲の樹林の伐採により減少したと思われる。

### 【保全上の留意点】

溜め池の改修に当たっては、周囲をすべてコンクリート護岸で覆うことは避け、周辺の樹木をできるだけ伐採しないよう留意する。河川の改修では、三面コンクリート張りの直線的な流れにすることは避け、瀬、淵が連続的に存在するような自然な形を残すことが望まれる。その他に生息環境の開放水面の維持や、越冬場所となる樹林環境の維持に留意する。

### 【特記事項】

名古屋市内における調査(澤田, 2019)や新編西尾市史編纂に係る調査からも複数の産地が新たに確認された。都市部においても適地であれば生息が認められる場合があり、詳細な調査によって新たな産地の確認が期待される。

### 【引用文献】

澤田宗一郎, 2019. 名古屋市内におけるオオアメンボ(カメムシ目アメンボ科)の記録について. なごやの生物多様性, 6:33-39.

### 【関連文献】

浅岡孝知・家城 司, 1990. 愛知県の異翅目. 愛知県の昆虫, (上): 123-162. 愛知県.

矢崎充彦・石田和男, 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60 (234): 165-200.

吉富博之・長谷川道明, 1997. 愛知県のアメンボ. 豊橋市博研報, (7): 35-39.

中尾史郎, 2019. 第14章 絶滅危惧アメンボ類の保全. 絶滅危惧種の生態工学: 165-177. 地人書館, 東京.

(澤田宗一郎)